

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年11月10日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891700064		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター取手	ユニット名	ポパイ
所在地	〒302-0021 茨城県取手市寺田4697-1		
自己評価作成日	平成27年3月20日	評価結果 市町村受理日	平成27年11月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891700064-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0891700064-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成27年5月19日	評価機関 決 済 日	平成27年11月10日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりが役割を持ち、皆さんと協力して、張りのあるある生活を送っていただきたいと思っています。日々の暮らしの中で調理をして皆さんに提供する、歌を歌って皆さんを楽しませたい、自分が誰かの為に役立っていると実感し生きがいを持って暮らしていただけるホームでありたいと思っています。スタッフ全員が『家族を入居させたいと思えるホームにしよう』を心がけて支援しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所の周囲は閑静な住宅地で利用者が静かに暮らせる環境の中、日頃から隣近所の住民との関わりを大切に、事業所が開催する行事の前には挨拶を兼ねてお知らせに回るなど、利用者が地域の一員となれるよう配慮した支援をしている。  
管理者は利用者の誕生会を月毎にまとめて行うのではなく、利用者一人ひとりの誕生日に家族等を招待して祝っており、利用者の楽しみとなる支援に力を注いでいる。  
事業所が所有する車が無いため、利用者全員で外出する機会が無かったが、介護タクシーを利用して近隣の高速道路のサービスエリアまで外食を兼ねた外出支援を試みたところ、利用者に変な喜ばれたので、その後に年間計画に組み込んでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体の理念の他に、事業所独自の運営理念を作り、玄関・ユニット・事務所に掲げ、実践しています。	法人の理念と地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を作成し、玄関や事務室及び、各ユニットの居間に掲示している。 職員は各自で理念を確認し、実践に結び付けているが、理念の文章が長いため、把握するまでには至っていない。	管理者と職員で把握し易い理念を作成し、全職員で確認することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板を回していただき入居者様と一緒に届けたり、地区の清掃日にはできるだけ参加しています。日々の買い物、近隣の交流センターの将棋倶楽部に参加し出掛ける方、夏祭りや季節の催し物は地域の方が声をかけて下さいます。なお当ホームのお祭りには多くの方が参加くださっています。	利用者は職員と一緒に回覧板を回したり、年2回地域の清掃活動に参加するほか、定期的に日本舞踊やハンドベル、習字のボランティアを受け入れたり、近隣の福祉専門学校の実習を受け入れるなど、利用者が地域住民とつながりながら暮らせるよう支援している。 年1回事業所主催で行う「ニチイ祭」には、家族等や近隣住民を招待して地域住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	多くのボランティアの方々に来てくださり交流を深めると共に入居者様子や職員の関り方を通して認知症の理解を得る様になっています。又、当ホームのお祭りでは、「認知症の基本知識とニチイの認知症ケア」と題し展示発表を行いました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員、地区担当の民生員、地域住民代表、家族代表で、二ヶ月に一回開催し、運営・行事報告、今後の予定などやかな雰囲気意見交換しています。話題がきっかけとなり「ほほえみ通信」がカーになったり、人為不足の話しから、お知り合いの方を紹介していただいたりしています。	運営推進会議は家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民、管理者、職員で2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「事業所で発行するほほえみ通信は白黒で写真等が判りづらいのでカラー版にしてはどうか」や「職員不足解消に委員や家族等の知人に声かけをしてはどうか」などの意見や提案を受け、管理者は「ほほえみ通信」をカラー版に変更するとともに、家族等の知人を紹介してもらうなど、意見をサービスの向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には必ず出席していただいています。又そのお知らせや、行事のお知らせ、介護保険更新手続きなど市役所に足を運んでいますので、顔を覚えていただき、話しやすい関係を築いています。また、運営推進会議後、グループホームの実情・規定などを話し合ったり親しくさせていただきました。	管理者は要介護更新申請などで定期的に市担当者を訪問し、運営状況や空き情報を報告して協力関係を築くように取り組んでいる。 市担当者からは介護保険制度の改正や研修、お知らせなどが随時郵送で届くほか、管理者は事業所の運営に関する相談を行い、アドバイスを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームで定期的に勉強会を開き、スタッフが発表者となり、マニュアルや独自の資料を作成し、理解を深めています。	身体拘束や行動制限を行わないことを重要事項説明書に明記するとともに、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに努めている。 定期的に身体拘束排除マニュアルをもとに内部研修を行なうとともに、職員は身体拘束の具体的な行為と弊害について独自の資料を作成し、発表している。 現在入居間もない利用者の帰宅願望から、1階のユニット出入口は自由に玄関に行けないよう施錠しているが、家族等に説明や書面での同意を得るまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束の行為をしなくてはならない場合は、家族等から書面での同意を得ることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホームで定期的に勉強会を開き、スタッフが発表者となり、マニュアルや独自の資料を作成し、理解を深めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホームで定期的に勉強会を開き、スタッフが発表者となり、マニュアルや独自の資料を作成し、理解を深めています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	専門用語や難解な言葉を避け分かりやすい言葉で時間を掛けて説明させていただいています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会の際にご意見ご希望を伺って日々の生活に反映しています。又全社的にアンケート調査を実施しています。	管理者や職員は、利用者からは日々の会話から、家族等からは来訪時や電話などで、意見や要望を聴くように努めている。 年1回法人本部で「顧客満足度アンケート調査」を実施し、集計結果は事務室入り口の棚に、自由に閲覧できるようになっている。 家族等から「散歩の支援をして欲しい」との要望を受け、散歩をする機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議やカフェインだけでなく、日頃から職員が相談や意見が言える環境づくりに努め、その声を運営に活かすように努めています。	管理者は月1回の業務ミーティングで、職員の意見や提案を聞く機会を設けているほか、休憩時間にコミュニケーションを図るなど、日頃から何でも言い合える環境づくりに努めている。 職員から「利用者が座る座席の配置換え」と「誕生会での家族等の招待する。」ことについての提案を受け、席替えを行ったり、誕生会には家族を招待したりと、意見や提案を運営に反映している。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	時給者については、「キャリアアップ制度」があり、スキルに応じた昇給、昇格を図っています。常勤者においては、「個人別目標チャレンジシート」を年2回行い自己評価を行っています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内では「テクニカル研修」が実施され、各々のスキルアップを図っています。又社外の研修への参加も促しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	「取手市地域密着型サービス連絡会」に出席しています。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時には必ずご本人と面談し、状況やご要望をお聞きしています。又、初期のケアプランは短期目標をほぼ一ヶ月程度とし、言動や表情などを観察し、スタッフ全員で関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時にホームを見学していただくと共に、現在ご苦労されていることや不安に思っていること等をお話しいただいています。又入居間もなく面会にいらっしゃったときは、こちらから声をかけるようにして関係を築くようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談時から、ご本人並びにご家族の状況を考察し、系列の事業所及び近隣の事業所へのサービスを鑑み、お勧めしています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	残存機能を活かし、その人らしく充実した生活が送れる様に、スタッフは後方支援的な役割に徹し、自発的な生活が営めるようにアドバイスしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	素朴な質問をも傾聴し、信頼関係を構築しながら、共に介護する関係作りに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達と外出されたり、ご家族と旅行に出掛けたり、入居前から通っている将棋倶楽部に参加したり、なじみのスーパーや本屋へ買い物に行ったり、慣れ親しんだ生活の継続に努めています。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように配慮し、馴染みの人との関係が途切れないように支援している。 職員は利用者が以前から通っていた将棋クラブやスーパー、本屋などに継続して行けるよう支援するほか、友人や家族等の協力を得て外出や行きつけの美容室、旅行等の人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日頃の生活を観察し、また皆様が一同に会した時などの様子から、それぞれの関係を把握し生活全般において孤立しないようにスタッフが介入しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後もご家族から電話相談があり、それに応じています。また、「近くに來たから」と、寄っていただくご家族もいらっしゃいます。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃の生活の会話から、希望や意向を把握し、カンファレンス等で実現可能にする話し合いを設けケアプランを立てています。	管理者や職員は、契約時のアセスメントから利用者の生活歴を把握するとともに、日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら思いや意向の把握に努めている。 利用者の思いや意向などを把握した際には、実現可能に向けて業務ミーティングやカンファレンス時に職員で話し合い、利用者の思いに添えるよう支援している。 把握した内容は、「個人記録」と「連絡ノート」に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント（ご家族にお聞きしています）や日々の会話の中から把握し、スタッフ間で情報を共有することでより多くの情報を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のケアの中で話を傾聴し、他のスタッフ等と話し合ったり記録をしたりし、その把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来訪された時やプラン変更時の「家族の生活に対する意向」、往診時には主治医と情報を共有し、モニタリング・再アセスメント・担当者会議を行いそれぞれの意見を介護計画に反映させている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師や看護師、職員の意見を取り入れて計画作成担当者が作成し、月1回カンファレンスを実施するほか、6ヶ月毎にモニタリングを実施して6ヶ月から1年毎に見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直し、利用者や家族等から確認を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録・管理日誌等の他に、連絡ノートを利用して、スタッフ個々の気づきや思いついた工夫などを記入し、又それに対しての意見を記入することで情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々にも生まれるニーズにいかに対応するか、それに対してどのように対応すべきか、柔軟な対応が求められるため、職員の予定シフトを変更したり、出勤の職員を多くして対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	その様にしている		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	その様にしている	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能かことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 月2回協力医療機関の医師による訪問診療や月1回かかりつけ医の往診を支援している。 受診結果は家族等に電話で連絡するとともに、医師との連絡に使用している「受診健康管理記録」のほか「個人記録」に記載し、全職員で共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医の看護師との関係も良好で、些細な異変の連絡・相談に対して快く対応して下さり、職員も得られたアドバイスに基づき対応しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医の先生との関係も良好で、情報交換や相談ができています。入院中の状態や今後の治療方針の説明には家族・主治医・相談員の話し合いに同行させていただき、早期に退院出来る様に体制作りに努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合のあり方については、契約時に説明していますが、殆どの場合、主治医（提携医）のアドバイスを受け入院・療養型病棟へ移行など、家族と医療機関との橋渡しをしています。	法人の意向から看取りは行わない方針である。 重度化した場合は協力医療機関の医師と相談をして、入院や他事業所への入居について家族等と話し合い、対応することとしている。 契約時に重度化や終末期に向けた方針を口頭で説明しているが、「重度化や終末期に向けた事業所の対応指針」の明文化や書面で同意を得るまでには至っていない。	昨年度の課題であった「重度化や終末期に向けた事業所の対応指針」の作成とともに、「利用者や家族等から書面で同意を得る」ことが達成されていないので、再度、本部や支店担当者の協力を得て達成することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルをもとに発生時に混乱しないように、手順や対応について訓練・勉強会をしています。緊急時の為に連絡先を纏めたファイルを一冊作成し、各スタッフに周知・使用しています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊立会いのもと、火災を想定した訓練を年2回行っていきます。夜間を想定した訓練も実施しています。地域の方々との交流の際、協力をお願いをしています。	避難訓練は消防署立ち会いのもと地域住民の参加を得て年2回実施し、うち1回は夜間想定での避難訓練を実施している。 訓練は通報や避難誘導、水消火器による消火訓練を実施し、訓練後に反省点や今後の課題などを話し合っって記録に残している。 災害に備えて水やレトルト粥、缶詰、毛布、ラジオ、懐中電灯、湯たんぽ、カイロなどを備蓄するとともに、一覧表を作成して管理している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人権を尊重し、ほこりやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。記録の記入もアルファベット4文字表記にしている。個人情報の取扱同意書も契約の際、取り交わしている。	管理者や職員は、利用者一人ひとりの性格や生活歴を把握したうえで、利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に支援している。 個人情報に関する書類は、事務室の施錠できる書棚に保管し、情報漏洩に留意している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より、自発的な行動・意思表示が出来るような環境を作り、またその様な関係を築いています。			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切にしている。また、カンファレンスなどで「その人らしい暮らしとは・・・」を考え職員全員で対応しています。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容師の方の協力のもと、その方の希望の髪型に散髪してもらっている。また、近隣の美容院で希望を伝えカラーリングやカットをしている。整容や服装にも気をつけるようにしている。家族対応にて希望の美容室に行っている方もいらっしゃいます。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	皆さんとの会話の中から、献立を立て、調理の手順や地方色を聞き出すなど、食事が楽しみになるような工夫を凝らしています。また、残存機能を考慮し出来る範囲で準備から片づけまで一緒に行っています。	献立は利用者の希望を聴きながら決め、食材は利用者と職員で一緒に買い出しに行き、職員が調理して提供している。 利用者は人参やじゃがいもの皮むきの下準備やテーブル拭き、後片付けなど、できる範囲で担っている。 職員は食事が楽しいものになるよう、利用者と会話をしながら介助や見守りの支援をしている。 誕生会には市販のホールケーキで祝ったり、ドライブを兼ねて外食を取り入れるなど、食事が利用者の楽しみとなるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を管理、把握し、必要摂取量に満たない場合は、献立や調理方法を工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの残像機能に合ったケアを行い、毎食の口腔体操、食後の口腔ケアを実施しています。また、定期的な訪問歯科による口腔ケアを実施しています。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ADLを鑑み、日々の食事量や水分摂取量を考慮し、パットの使用量の軽減や自力排泄を促し、日々のケアに取り組んでいます。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行うとともに、リハビリパンツやパッド、布パンツを利用して排泄の自立に向けた支援をしている。 失敗した場合は、周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないように配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防の為、食事の工夫で食物繊維の多いものを調理したり、水分摂取に努めたりしている。排泄管理はもちろんのこと、体操や運動を取り入れたり、場合により排泄時に腹部マッサージを取り入れたりもしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	ご本人の意思を優先し、入浴して頂いています。また、最低でも週二回は入浴していただき、立ち上がり不安な方には職員が二人で対応するときもあります。また、菖蒲湯やゆず湯等、季節行事を取り入れています。	週2回の入浴を基本としているが、利用者の希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴など、個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、利用者の興味のある話しをしながらさりげなく風呂場へ誘導するなど、工夫をしている。 菖蒲湯や柚子湯で季節感を取り入れるほか、入浴剤を使用して入浴が楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中にリビングに居たり、居室に戻ったりと自由な時間を過ごせるように支援している。日中の活動性を上げるようにして、夜間の良眠にも繋がっていると思われる。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を職員が把握、提携医とも連携し、その理解を深めるようにしています。また、服薬時の確認にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	センター方式によるアセスメントにて、家族からの情報提供をお願いし、生活歴を把握しています。また、日頃から一人ひとりの生活を観察し、現状にあったケアプランに基づき支援しています。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材の買い物に近くのスーパーに買い物に出掛けたり、ゴミ捨てには、散歩を兼ねて遠回りしたり、出来る限りホームの外に出掛ける機会を作っています。また、ご家族や友人の誘いで外出したり食事に出掛けたりされています。	日常的に利用者と職員と一緒に散歩をして五感を刺激しているほか、散歩に行けない利用者には、テラスにテーブルと椅子を配置し、お茶を飲みながら気軽に外気にふれられるよう支援している。 四季の移り変わりを肌で感じられるように、近隣の桜や季節の花を見に行くとともに、職員と一緒に食材の買い出しに近所のスーパーに定期的に出かけるほか、年間計画にドライブと外食を兼ねた外出計画を組み込み支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の金銭管理は難しい為、常時所持してもらうことは行っていない。金庫に保管し管理している。欲しいものがある場合は、お小遣の中から支払ってもらっている。お小遣帳に領収書を貼付して写しを毎月、家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話の取次や希望によって本人からかけられるように支援している。年賀状等、習字教室で作成しご家族に送っています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活リハビリの一環として制作した作品などを展示し、また、季節の花を飾ったり、環境美化に取り組んでいます。	居間兼食堂にある大きな窓からは、明るい採光や暖かな日差しを取り込み、ソファやテレビを配置して利用者が寛げる環境となっている。 居間兼食堂の壁には、利用者の習字の作品や職員と一緒に制作した折り紙の鶴や花、切り絵の鯉のぼりなどを飾り、季節感を醸し出している。 風呂場の脱衣室には、利用者が服の着脱時に転倒しないよう、長椅子を配置している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアやテラスを常に開放し天気の良い日はスタッフも一緒にお茶を飲む機会を設けたりして、皆様がいつでも集える環境を整備しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族には入居の際にお話していますし、面会時に必要不必要なものを相談しています。	居室にはエアコンやベッド、カーテン、クローゼットを備え付けている。 利用者は家族等と相談しながら、使い慣れた椅子や筆筒、テレビ、マッサージ機、家族の写真、仏壇、位牌、利用者が制作した作品など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	まごつき易い所には張り紙を貼るなりして、混乱を防ぐようにし、自分の意思や力で行動できるように配慮しています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が ○ 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 ニチイケアセンター取手

作成日 平成27年11月25日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1	理念の共有と実践	管理者と職員で把握しやすい理念を作成し、全職員で確認する。	業務ミーティングにおいて、スタッフから意見を出して頂いて、新しい理念を作成。	解決済
2	6	身体拘束をしないケアの実践	やむを得ず身体拘束の行為をしなくてはならない場合は、家族等から書面の同意を得る。	その後実施した担当者会議で、状況等を考慮した結果、もう一箇所の入出口を解錠することを決定した。	解決済
3	33	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援	文章化に向けた改善利用者・家族から書面で同意を得る。	支店担当者と検討する。	随時
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。